

季刊マーメイド

逗子市立図書館報

第14号

2016年11月1日発行

逗子市立図書館

逗子市逗子4-2-10

046(871)5998

<https://www.library.city.zushi.lg.jp>

[ush.lg.jp](https://www.library.city.zushi.lg.jp)



蘆花記念公園と逗子市郷土資料館

蘆花記念公園は昭和59年4月、市制施行30周年を記念し設けられた広さ4.3haの公園です。公園内には逗子市郷土資料館、旧脇村邸、野外炊事場、休憩所が点在しています。

うす曇りの秋の午後、逗子市郷土資料館を訪問しました。富士見橋となぎさ橋の間にある細い道を山側に入ると静かな住宅地の先に、資料館のある蘆花記念公園が見えてきました。



公園名の由来となったのは明治の文豪徳富蘆花。蘆花は明治30年から4年間逗子柳屋に逗留し、『不如帰』をはじめとする代表作を次々と発表します。『不如帰』は明治31年から32年にかけて国民新聞に連載され、この作品によって風光明媚な「逗子」が全国に伝えられました。

（柳屋と徳富蘆花・徳富蘇峰兄弟、国木田独歩については季刊マーメイド第1号もご覧下さい。）



公園入口付近の木製立札
ここから蘆花散歩道



小道の先に見えてくる門

蘆花記念公園入口からつづらおりの蘆花散歩道を登っていくと、木々が風に揺れ、鳥や虫の声が聞こえ、波音も遠くから響いてきます。散歩道沿いの木製の立て札に書かれた蘆花の『自然と人生』の一文がすつと心に入るような山の小道です。「湘南雑筆」1月から12月までと、「相模灘の落日」の計13枚の立て札に足を止め、蘆花の言葉を楽しむつつ歩くのも一興です。郷土資料館に到着しました。入



流木を自然のままに生かした欄間

民間企業や東京都目黒区の所有を経て、昭和58年に逗子市に移管されたそうです。建物にはかなり手が加えられているものの、創建当時から変わらぬ梁、柱、建具

場料大人100円を払い、いざ建物内へ。資料館では運が良ければ職員による詳しい解説を聞きながら、逗子の郷土資料にふれることができます。

木造平屋建ての趣のある佇まいは、大正元年に横浜の実業家の別邸として建築され、大正6年から昭和19年まで、徳川家16代当主徳川家達氏いえさとの別邸でした。その後、

など見所が随所にあります。現在収蔵庫として使われている離れは、大正5年の建築で家達氏の孫徳川家英氏が使ったものです。

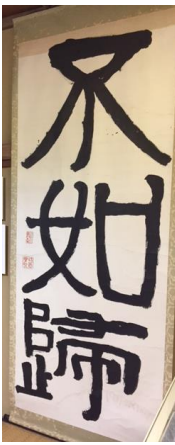


母屋から離れを見る

館内は文学関係展示エリア、市内の遺跡出土品エリア、民俗資料エリアに大きく分かれています。文学関係展示エリアには、徳富蘆花と兄蘇峰を中心に逗子にゆかりのある文学者とその作品についての展示がされています。

文学関係展示エリア

中に入って最初に目に飛び込んでくるのが、徳富蘇峰による「不如歸」の書です。逗子市新宿にある高養寺（浪子不動）前の海に浮かぶ石碑の文字です。そのほかにも、ここ逗子の地で蘆花、蘇峰とその家族が睦まじく撮られた家族写真や、蘆花と愛子夫人が二人で書いた扇面の書など、珍しい品やその生活ぶりを垣間見ることのできる展示に気持ちが高ぶります。そこから逗子ゆかりの文学者作品展示へと続いてゆきます。芥川賞を受賞している文学者も多くいます。



市内の遺跡出土品エリア



持田遺跡（縮尺 1：333）
現在の桜山5丁目観蔵院裏あたり

弥生時代後期の「持田遺跡」のジオラマや土器、近年発見され調査が進められている長柄桜山古墳群からの出土品など、展示に工夫が凝らされ、飽きることなく楽しめます。（逗子の遺跡については季刊マーメイド第8号・第9号で特集しています）

長柄桜山古墳群は、平成11年に1人の歴史愛好家が自宅付近で埴

輪の一部を見つけたことから、2つの古墳の発見、発掘調査へと発展し、平成14年には国史跡の指定を受け整備事業がすすめられています。千数百年前の人間の営みが、身近なところに隠れていたという歴史のロマンを感じるエピソードです。

民俗資料エリア



明治のころの庶民の生活調度品のほか、県営水道がひかれる前の逗子の「水屋」に関する展示があります。逗子では井戸水の塩辛いところが多く、明治の頃は飲料用として湧水を売る「水屋」が、店の名の入った半纏はんてんを着て水を入れた桶を運んでくれています。



蘆花記念公園近くにあった水屋「本田」の半纏

住民の皆が塩辛い石鹼も溶けないような水を飲料水として用いており

〜中略〜

披露山下の山腹から浸透して出づる湧水を売る「水清」という人から毎日それを配達して貰うなどした。

藤原楚水『藻塩草』より

「ここに座って眺めると、海に浮かんでいるように見えますよ」職員に促され民俗資料エリアの畳

逗子市郷土資料館

逗子市桜山 8 丁目 2275 番

046-873-1741

開館時間

午前 9 時から午後 4 時

休館日

月曜日（休日にあたる場合はその翌日）

入館料

大人 ¥100 小人 ¥50

* 逗子市郷土資料館は、2020 年（令和 2 年）3 月 31 日をもって閉館しました。（2022 年 4 月 1 日追記）

に座って窓の外に目をやると、目の前に逗子の海と江ノ島が見えました。冬になり空気が澄むと富士山がくつきり見える日が多くなり、絶景を望めるとのことです。
千数百年前このあたりに古墳を作った人々も、徳川家 16 代当主徳川家達氏も、明治の文豪もこの景色に魅了されたに違いないと思える素晴らしい眺めでした。

参考資料

『不如帰 改版』徳富蘆花 岩波書店

ZY F ト

『自然と人生』徳富蘆花 岩波書店

ZY 914.6 ト

『富士小説』徳富健次郎 徳富愛

福永書店 93.Z ト

『藻塩草・炉辺談話』藤原楚水

省心書房 ZF 914.6 フ

『花葵徳川邸おもいで話』保科順子

毎日新聞社 P 288 ホ

『逗子市文化財調査報告書 第六集』

持田遺跡発掘調査報告 本文篇 709.8 6

『逗子市文化財調査報告書 第七集』

持田遺跡発掘調査報告 図録篇 709.8 7

『長柄桜山古墳群』 ZB 70.Z ナ